

Q19a 分子雲衝突による Spitzer Bubble の形成; S44, S121, S143

服部有祐, 大濱晶生, 長谷川敬亮, 佐野栄俊, 山本宏昭, 立原研悟, 福井康雄 (名古屋大学), 鳥居和史 (NAO)

近年、我々は大質量星形成領域として Spitzer Bubble に注目している。Spitzer Bubble は赤外線  $8 \mu m$  でリング状の構造を持つ天体で、Churchwell et al. (2006, 2007) によって約 600 天体がリストされている。このリング状構造の起源が Spitzer Bubble が内包する大質量星からの星風によって形成されていると考えられてきたが (e.g., Weaver et al. 1977)、我々名古屋チームはこの天体が分子雲衝突によって形成された天体であると考えこれまで NANTEN2 望遠鏡, Mopra 望遠鏡 ( $^{12}CO(J=1-0)$  輝線), ASTE 望遠鏡 ( $^{12}CO(J=3-2)$  輝線) を用いて 90 天体近くの Spitzer Bubble を観測してきた (2014 年秋季年会、他多数報告)。

分子雲衝突の候補天体に共通する特徴として大きく 3 つが挙げられる; 1) 視線速度の異なる 2 つの分子雲の存在、2) 2 つの分子雲が相補的な分布をしている、3) 星風による膨張運動では説明できない速度構造を持つ。今回新たに S44, S121, S143 の 3 天体において分子雲衝突によって形成されたと考えられる観測結果が得られ、いずれの天体も先述の特徴を満たしていることが分かった。本講演では今回新たに得られた 3 天体の結果とこれまでに得られた結果を比較し、分子雲衝突の進化段階や Spitzer Bubble の構造について議論する。